

「JSCA 版 RC 建築構造の設計（2019 年 2 月 25 日 第 2 版第 1 刷）：オーム社」正誤表

JSCA 版 RC 建築構造の設計（第 2 版）出版編集 WG

発行：2019 年 12 月 13 日

頁	場所(行など)	誤	正
目次前の頁		RC 資料：「鉄筋……計算用資料」	RC 資料：「鉄筋……計算用資料集」
第 I 編 第 1 章			
21	図 1・14	$\alpha = \sqrt{F_c/18}$	$\alpha = \sqrt{F_c/18} \leq \sqrt{2}$
第 I 編 第 2 章			
56	図 20・10	$\alpha = \sqrt{F_c/18}$	$\alpha = \sqrt{F_c/18} \leq \sqrt{2}$
102	下 10 行	最小かぶり厚さは $70 - 22/2 = 59\text{mm}$	最小かぶり厚さは $60 - 22/2 = 49\text{mm}$
102	下 9 行	$C = \min(48, 59 \times 3, 22 \times 5) = 48\text{mm}$	$C = \min(48, 49 \times 3, 22 \times 5) = 48\text{mm}$
107	下 8 行	$lfa = 1.4 \text{ N/mm}^2, 0.8lfa = 1.12 \text{ N/mm}^2$	$lfa = 2.1 \text{ N/mm}^2, 0.8lfa = 1.68 \text{ N/mm}^2$
108	上 1 行	$sfa = 1.4 \times 1.5 = 2.1 \text{ N/mm}^2$	$sfa = 2.1 \times 1.5 = 3.15 \text{ N/mm}^2$
	上 1 行	$0.8sfa = 1.68 \text{ N/mm}^2$	$0.8sfa = 2.52 \text{ N/mm}^2$
	上 11 行	最小かぶり厚さは $70 - 22/2 = 59\text{mm}$	最小かぶり厚さは $60 - 22/2 = 49\text{mm}$
	上 13 行	$C = \min(158, 59 \times 3, 22 \times 5) = 110\text{mm}$	$C = \min(158, 49 \times 3, 22 \times 5) = 110\text{mm}$
	上 17 行	$fb = 0.8 \times (F_c/40 + 0.9) = 1.14 \text{ N/mm}^2$	$fb = F_c/40 + 0.9 = 1.42 \text{ N/mm}^2$
	上 18 行	$\dots\dots < Kfb = 2.85 \text{ N/mm}^2$	$\dots\dots < Kfb = 3.56 \text{ N/mm}^2$
第 I 編 第 3 章			
163	上 15 行	「鉄筋コンクリート構造計算用資料」	「鉄筋コンクリート構造計算用資料集」
	上 17 行	「耐震設計における保有耐力と変形性能」 日本建築学会（2001 年）	「建築耐震設計における保有耐力と変形性能」 日本建築学会（1990 年）
	上 18 行	「水平力に対する建築物の基礎の設計指針」 日本建築センター（1999 年）	「地震力に対する建築物の基礎の設計指針」 日本建築センター（1989 年）
175	下 14 行	告示平 2 建告第 1459 号……	告示平 12 建告第 1459 号……
195	下 1 行	……「急激な耐力防止の方針」に……	……「急激な耐力低下の防止の方針」に……
206	上 7 行	……縦横ともに 2-D19(SD295)……	……縦横ともに 4-D19(SD295)……
第 I 編 第 4 章			
261	上 6 行	「水平力に対する……」……(1999 年)	「地震力に対する……」……(1989 年)
268	上 1 行	沈下量が年々現象	沈下量が年々減少
273	上 3 行	建築物の遮音性能基準	建築物の遮音性能基準と設計指針
283	上 9 行	大梁両端の曲げ降伏時せん断力柱：	大梁両端の曲げ降伏時せん断力，柱：
285	下 13 行	$Q_{DL} = 10\text{kN}$	$Q_{DL} = Q_L = 10\text{kN}$
287	下 14 行	$Q_{DL} = 86\text{kN}$	$Q_{DL} = Q_L = 86\text{kN}$
288	上 6 行	$sfa = \min\{\dots\} = 2.55 \text{ N/mm}^2$	$sfa = \min\{\dots\} \times 1.5 = 2.55 \text{ N/mm}^2$
290	上 15 行	$\gamma_1 = 1 - 1.1 \times l_{op}/l$	$\gamma_1 = 1 - 1.1 \times l_o/l$
290	上 16 行	$\gamma_2 = 1 - 1.1 \times \sqrt{h_{op}l_{op}/hl}$	$\gamma_2 = 1 - 1.1 \times \sqrt{h_o l_o/hl}$
290	下 2 行	$N_c = F_c (bD + na_g) = 2 \times 11 \times (850 \times 800 + 15 \times 16 \times 794) \times 10^{-3} = 19152$	$N_c = f_c (bD + na_g) = 22 \times (850 \times 800 + 13 \times 16 \times 794) \times 10^{-3} = 18593$
第 I 編 第 5 章			
351	下 8 行	$\times \left\{ 1 + 2\beta - \frac{N}{be \cdot D \cdot F_c} \left( 1 - \frac{at \cdot \sigma_y}{N} \right)^2 \right\}$	$\times \left\{ 1 + 2\beta - \frac{N}{be \cdot D \cdot F_c} \left( 1 + \frac{at \cdot \sigma_y}{N} \right)^2 \right\}$
第 II 編			
376	上 9 行	多くの断面算定図表は n=15 として作成されているので、	削除
398	上 4 行	……技術基準解説書 <sup>(11)</sup> 定められて……	……技術基準解説書 <sup>(11)</sup> に定められて……

(以 上)